

オーチャードグラスの刈取り危険帯について

あつという間に涼しくなり、過ごしやすい時期になりました。季節の変わり目で体調を崩しやすい時期ですので、栄養や休息をしっかりとって、朝晩は体が冷えないよう注意しましょう。

今回は、草地管理のポイントとして、「刈取り危険帯」についてご紹介します。翌年1番草の収量は、この時期の草地管理が大きく影響しますので、適切な管理方法について改めて確認しましょう。

刈取り危険帯とは？

刈取り危険帯とは、読んで字の如し、「**牧草を刈ってはいけない時期**」のことです。

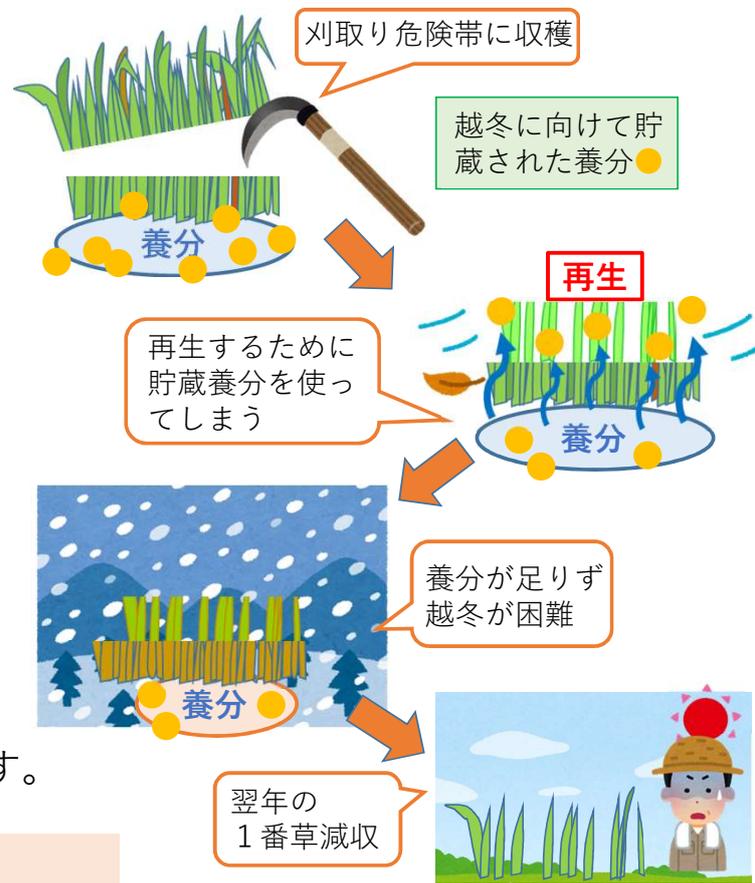


なぜ刈ってはいけないの？

牧草は、越冬に備えて根に養分を貯め込みます。

この大事な時期に刈取りをすると、牧草が再生・成長してしまうため、貯蔵すべき時に養分が貯蔵できなかつたり、せっかく貯蔵しかけた養分を消費してしまつたりします。

その結果、養分を十分に蓄えられない状態のまま越冬せざるを得なくなり、翌年1番草の再生不良や収量低下につながってしまいます。



刈取り危険帯のNG作業

① 刈取り（収穫、掃除刈り）

⇒ 特に刈取り危険帯に入ったばかりの時期の刈取りは、翌年の減収に大きく影響するので禁物です。

② 施肥（化成肥料や窒素成分が多い鶏糞等）

⇒ 窒素成分が多く供給されると牧草は養分の貯蔵をやめ、分けつや成長を始めてしまいます。

※牛ふん堆肥は窒素成分が比較的少なく、ゆっくり効くので影響は少ないです。



でも、どうしても刈らなければならない時は？

- ① 刈高12cm以上で刈る。
- ② 危険帯の後半で刈ることで、影響を少なくすることができます。

刈取り危険帯はいつ？

表 オーチャードグラスの地域別刈取り危険帯
(過去5年の平均より)

観測点	日平均気温 5℃以下	刈取り危険帯の目安
江刺	11月25日	その30日前 10月下旬～ 11月下旬
若柳	11月25日	
一関	11月27日	
千厩	11月25日	

刈取り危険帯は、秋の低温と日長の変化で始まり、ほとんど牧草が成長しなくなれば終わりです。

オーチャードグラスの場合、危険帯の終わりは、平均気温が5℃以下になる頃で、そこから30日前に遡った日が始まりとなります(表)。



【他の草種】
チモシー：危険帯を考慮する必要はない
ペレニアルライグラス：オーチャードグラスより始まりと終わりがともに約10日遅い

刈取り危険帯を過ぎてからの刈取りは、翌年収量が増える!?

危険帯を過ぎた11月下旬には、牧草は刈取り後の再生がほとんどなくなるので、養分の消費は少なく、越冬性は高く保たれます。

また、**刈取り危険帯後の収穫が翌年1番草の収量増加につながった**という試験研究報告があります。

※R2～3年に県内で実施した調査においても同様の結果が出ています。

ただし、初冬の刈取りになるので、収穫した牧草の成分はタンパクやエネルギーが低く、繊維の割合が増えます。

《子牛を大きく育てよう!》～岩手県肉用牛飼養管理マニュアル～



○ 哺育牛の飼養管理(寒冷対策) ★子牛は寒さに弱い!

哺育牛の適温は**13～25℃**で、**13℃未満**から「寒さ」を感じます。

岩手県内の月別平均気温では、**10月から4月までは13℃を下回るため、防寒対策が必要です(秋口は勿論春先も油断せずに防寒対策を続けましょう)。**

ネックウォーマーとカーフジャケットで保温しよう
(ヒーター使用も○)

コンパネ等ですきま風を防ぐ(でも換気は忘れずに!)

新鮮な水(できればお湯)でスターターをしっかりと食べさせよう!

たっぷりの敷料と牛床マットで下から暖かく!(濡れずに乾いた寝床!)

